

令和7年度

神山学校 「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ①基本的な学習習慣を身につけさせ、確かな学力を育成する。
- ②自らに必要な学びを意識させ、自己調整しながら主体的に学習に取り組む態度を育成する。

【各校の取組状況の把握について】

学力向上委員会を適宜開催し、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基礎的な知識・技能の習得については、一定の成果が見られる。自主学習にも前向きに取り組む、努力する生徒が多く見られる。 ●学力が二極化しており、学習したこと の定着や家庭学習の取組みが不十分な生徒や、習得した知識・技能を活用することが苦手な生徒もいる。	・習得した知識が、既習知識と関連付けられ、他の学習の場面や、実生活において活用することができる。	・ICT(タブレットドリル等)を活用し、個別最適化された家庭学習の充実を図る。 ・各教科において単元末テストを実施し、知識・技能の定着を図る場面を設定する。 ・教員間で生徒の学習状況について共有し、基礎知識・技能の定着へ向けた有効な手立てを考える。		・タブレットドリルやMetaMoJi Classroom等を活用し、生徒が個々の習熟度やペースに合わせて取り組める課題を設定・実施し、個別最適な学びを意識した家庭学習の支援に努めた。 ・各教科において単元末テストを計画的に実施した。点数の確認にとどまらず、知識・技能の定着状況を把握した。 ・自主学習ノートの活用状況などを教員全体で共有することで、生徒の家庭学習における取組みや定着度を把握に繋げた。	・ICT端末の学習履歴を活用し、一人ひとりの習熟度に応じた課題提示や家庭学習のさらなる充実を図る。 ・自主学習ノート等の共有から得られた情報を基に、学習習慣に課題のある生徒への具体的な声掛けや、効果的なノート活用のモデル提示を行う。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○授業中においては、積極的に自分の考えや意見を伝えようとする姿勢が見られ、主体的に学習に取り組むことができる。 ●自分の考えを正確に伝えるために、具体的な根拠を挙げたり、論理的な順序で説明したりすることに課題を感じる生徒も多い。	・自分の考えを論理的に整理し、多様な情報の中から必要なものを選び出して順序立てて伝える力を身につける。そして、相手に対する的確かつわかりやすく伝えることができる。	・各教科において自分の考えや意見を表現する場面を設定する。 ・ICTを活用し、自分たちの考えや意見を共有する場面を設定する。 ・縦割り班による合同学習において、話し合い活動を取り入れ、自分の考えや意見を深めていく場面を設定する。		・授業や合同学習の中でICT端末を効果的に活用することができた。自分の考えを可視化し、リアルタイムで全体共有する場面を設定したことで、生徒同士が互いの多様な考えや意見に触れ、様々な視点から物事を捉える機会を創出することができた。 ・縦割り班活動においては、異学年と活動する中で、異なる考えや意見を取り入れながら自らの考えをより深めようとする姿が見られた。 ・複数の情報や資料を適切に整理し、それらを根拠としながら筋道を立てて説明する論理的な表現力を身につけていく必要がある。	・他者の意見を聞くだけでなく、資料や様々な情報を根拠として示し合い、筋道を立てて考えを深める対話的な授業を、各教科において考え、実施する。 ・引き続きICTを活用した協働学習の場を設定する。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○授業規律を守って学習に取り組む、積極的に発言しようとする生徒が多く、落ち着いた雰囲気の中で授業を進めることができる。また、テスト前には前向きに学習に取り組むことができる。 ●与えられた学習に取り組むことはできるが、自己調整しながら自分に必要な学習を進めていくことは苦手な生徒もいる。	・学習内容について振り返りを行い、その成果や課題を明確にし、自己の学びを調整することができる。	・授業では、「めあて」の提示や「振り返り」を行い、学習への意識を高める。 ・ポートフォリオ等を活用し、目標設定・振り返り・学習の調整ができる場面を設ける。 ・テストや単元末テスト後の振り返りをさせ、自分の学習状況を客観的に把握させる。 ・自主学習ノートコンテストを実施し、生徒同士が互いの学習方法を学び合う機会をつくる。		・毎時間の学習目標の提示を徹底することから、学習意欲の向上と知識の定着に努めることができた。 ・「自主学習ノートコンテスト」を年間を通して複数回実施したことにより「自らの学びをより良くしよう」という主体的な学習態度が多くの子に見られるようになった。 ・定期テストや単元末テストの学習については、計画的な取組みが定着しつつある。一方で、日々の学習において自らの状況を客観的に捉え、主体的に学習方法の改善を図る力には課題がある。	・テスト後の一時的な振り返りにとどまらず、日々の授業や家庭学習において、生徒自らが学習の進捗を自己評価し、次の課題を明確にする習慣を身につけさせる。 ・ICTを活用し、目標設定・振り返り・学習の調整につながる方策を考える。